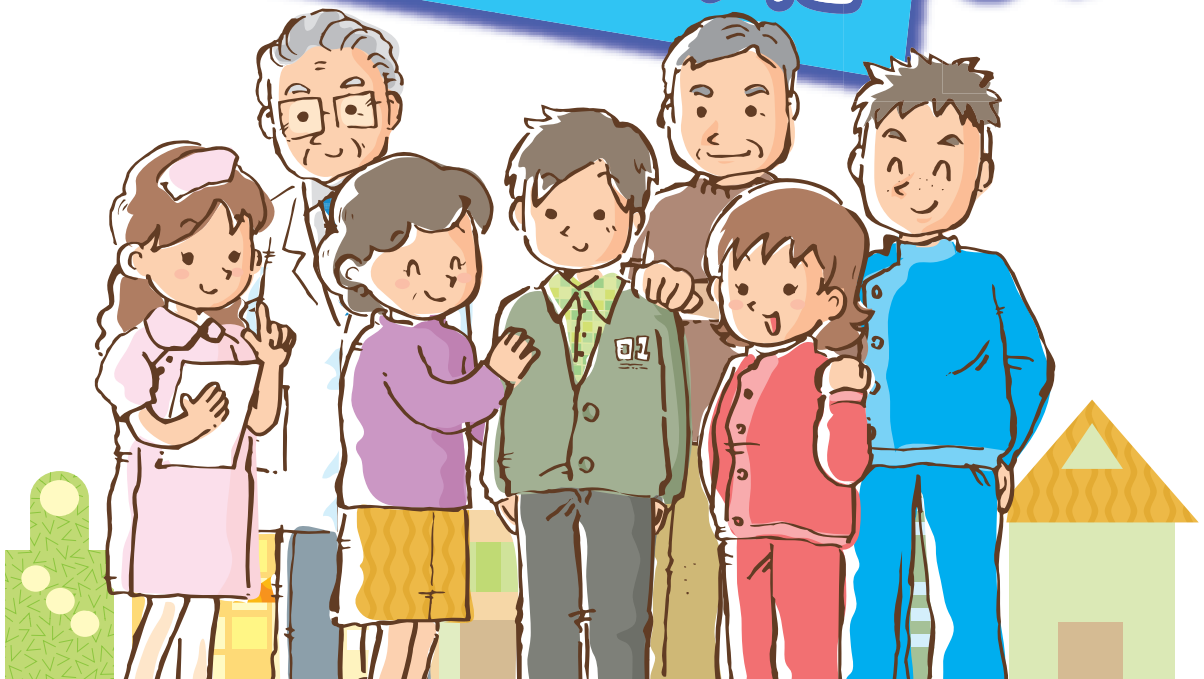
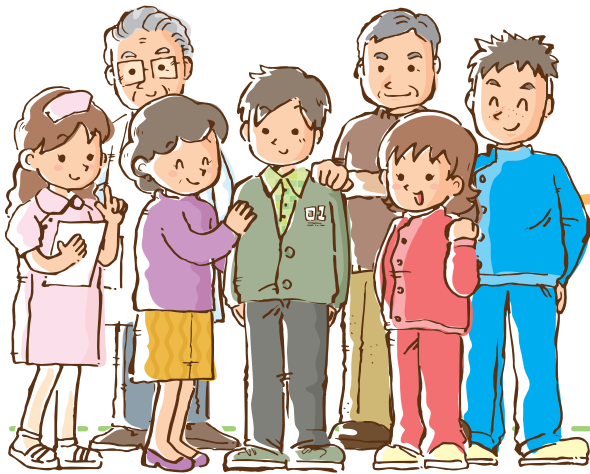


精神障害者の

退院促進 × 地域移行を

すすめるために





精神障害で精神科に入院された
方々に対して退院を支援し、
地域でその人らしい生活を送る
ために応援する体制を提案します。

① チームカンファレンス（ケア会議）にて
本人・家族等を交えたケアアセスメント
を行い、退院促進支援の計画を立てます。
また、施設内の支援計画をマネジメント
するケースマネージャーを設定します。

② ケースマネージャーを中心に
ケア会議を定期的
（例えば1ヶ月毎）
に実施し、アセ
スメントをもと
に目標・支援内
容を調整します。



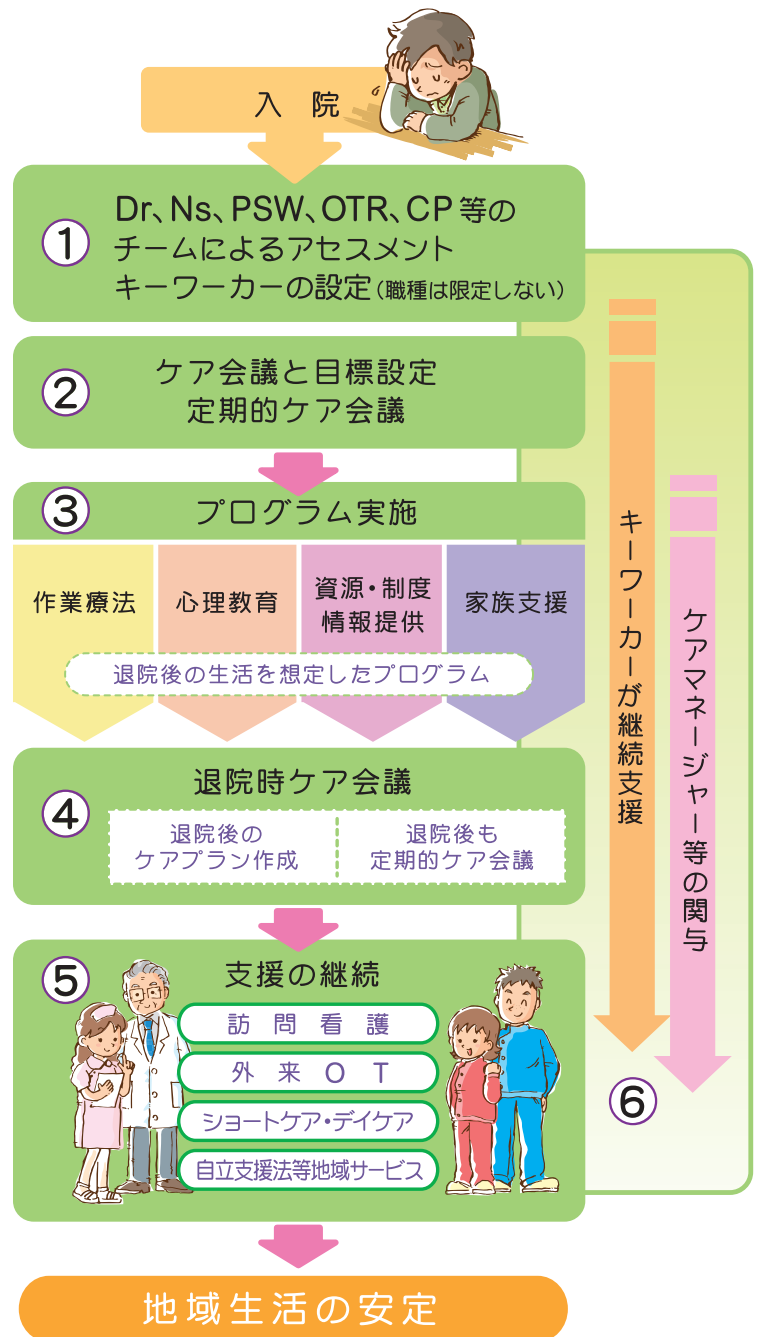
③ 作業療法、心理教育、資源・制度の情報
提供、家族支援等退院後の生活を想定し
たプログラムを実施します。

④ 退院時ケア会議にてアセスメントを行い、
退院後のケアプランを作成します。また、
退院後の支援体制を構築し、退院後も定
期的に対象者の動向をモニタリングして
いきます。

⑤ 退院後の医療においては、できるだけ馴
染みのスタッフが訪問看護、外来作業療
法、ショートケア、デイケア等で支援を
継続し、地域生活の安定と再発予防に努
めます。

⑥ ケースマネージャーは以上の流れをマネ
ジメントし、さらに地域のケアマネジ
ャー、支援コーディネーター、支援員等
との連携をはかり、対象者個々の地域生
活を支援する体制を構築していきます。

退院促進・地域移行のための支援体制



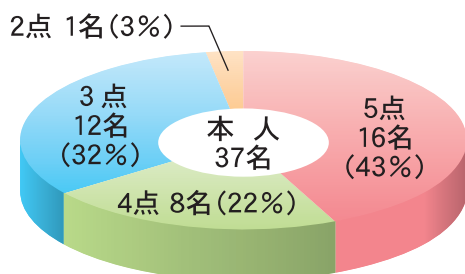
誰でも 本来生活すべきところで 生活したい!!

TOPICS

社団法人日本作業療法士協会では平成20年度障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援研究プロジェクト）「精神障害者の退院促進および円滑な地域移行のための地域支援体制構築に向けた研究」において、上記の方法を用いて研究協力病院の協力のもと43例の事例を退院支援しました。その結果、この方法が有効であるという結果が出ました。その一部を紹介します。

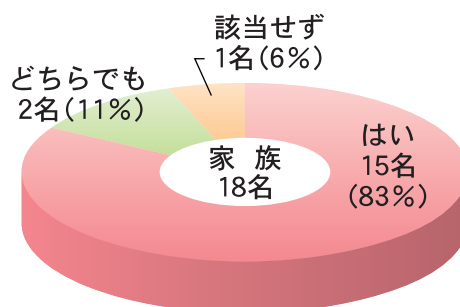
利用者 へのアンケート結果

●プログラム全体の満足度は？(5点満点)



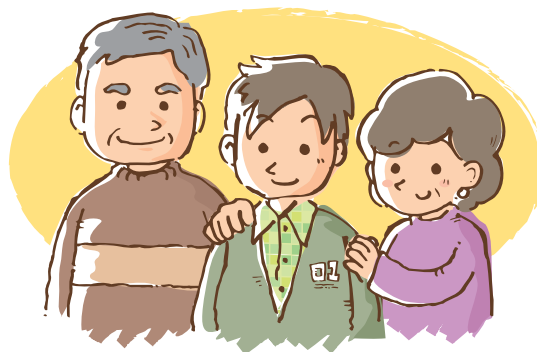
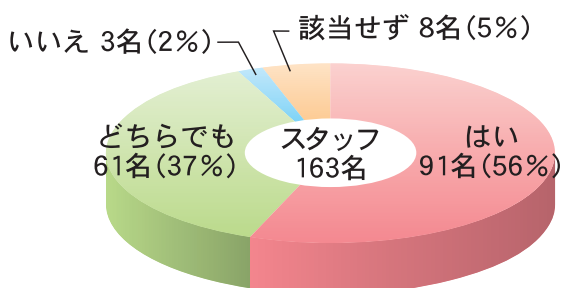
家族 へのアンケート結果

●プログラム全体に満足していますか？



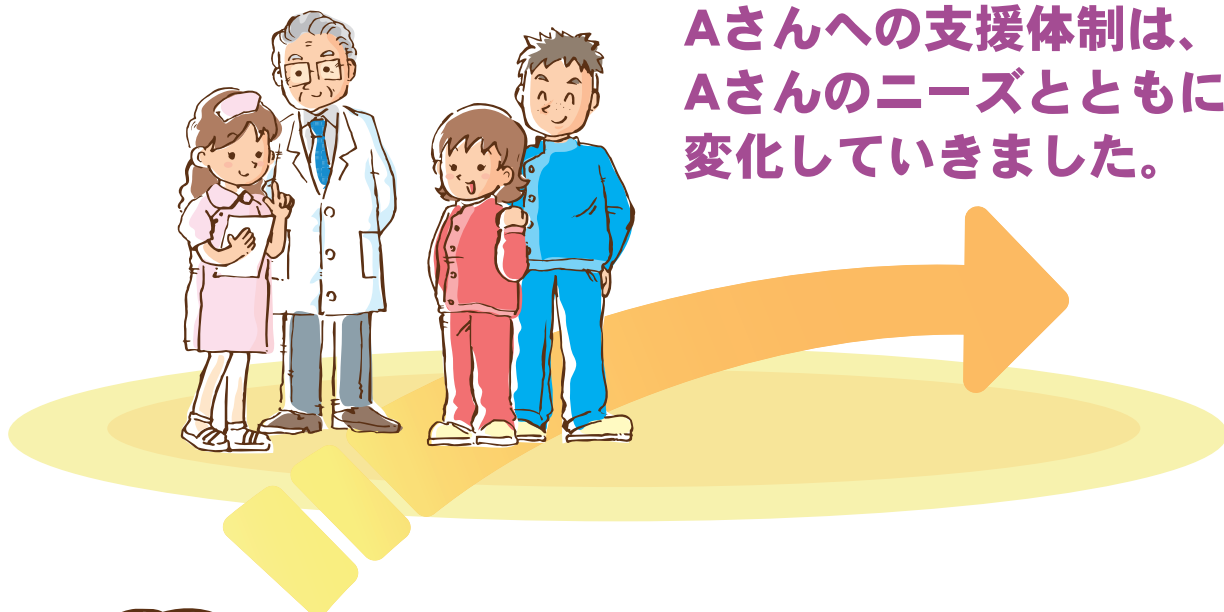
支援者 へのアンケート結果

●プログラム全体に満足していますか？

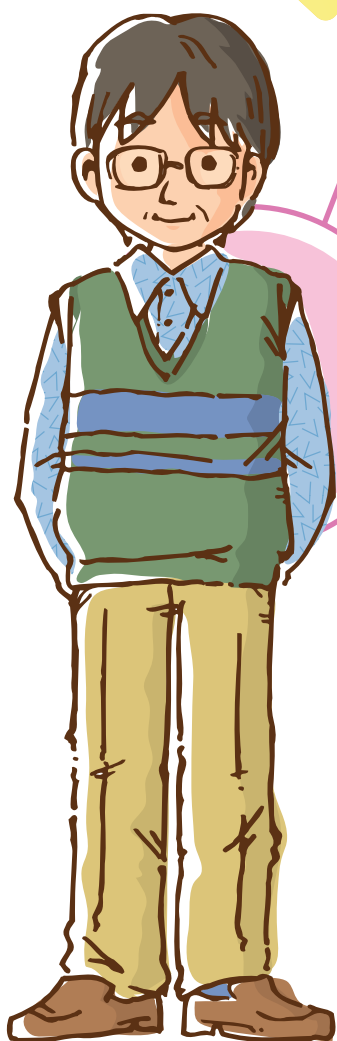


この体制は、対象者、家族の満足度が高いばかりでなく、支援者の意欲を高めていく方法でもあったことがわかりました。

長期入院していた方の 地域移行支援の一例を紹介します。



Aさんへの支援体制は、
Aさんのニーズとともに
変化していきました。

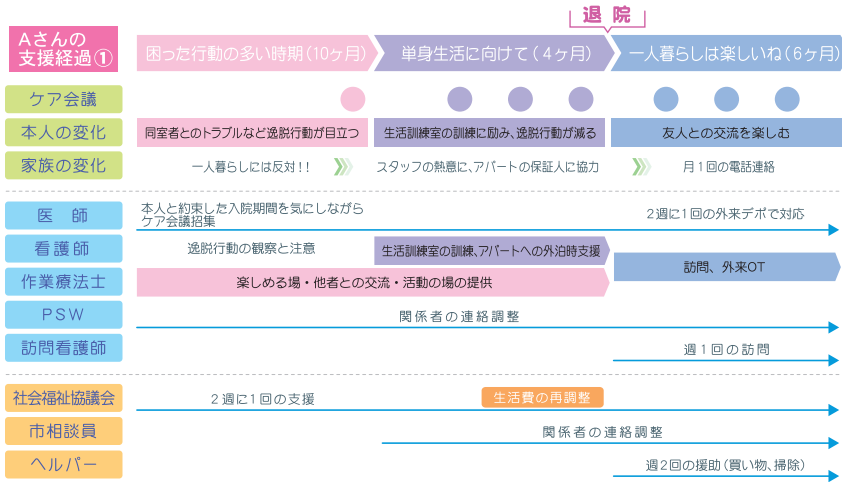


Aさん 40歳代後半、男性、統合失調症

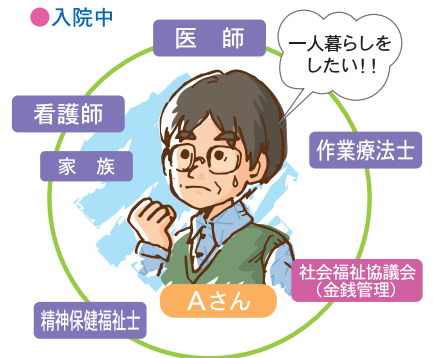
- 15年程の長期入院の後、グループホームに退院しました。
- 退院後は訪問看護の援助を受けていましたが、その時思いついたことで行動したり、約束を忘れることもしばしばでした。
- グループホーム内でのトラブルから2年程で再入院しました。
- 病棟では穏やかでマイペースな生活を送っていました。
作業療法へはほぼ毎日参加（将棋、音楽、体育館クラブなど）。時々、同室の人とのトラブルがあり、退院に向けた支援までに至りませんでした。
- 家族も退院には消極的でした。

① 一人暮らしをしたいAさんの希望を受けて..

- ケア会議にて「一人暮らしをしたい、グループホームには戻りたくない。」という希望が話されました。
- Aさんの希望を受けて、Aさんの能力評価も兼ねた生活訓練室での個人作業療法を開始しました。
- そこで、料理や掃除ができる、意外に生活能力が高いAさんが確認できました。
- ケア会議を通して支援チームは一人暮らしを支持していきました。
- 退院後の支援として、ヘルパー導入、権利擁護を利用したの金銭管理、病院からの訪問看護、外来作業療法の利用など重装備の支援体制を組みました。
- 数回のケア会議を通して、家族からの了解を得る作業も行い、4ヶ月後に退院しました。



Aさんの支援体制

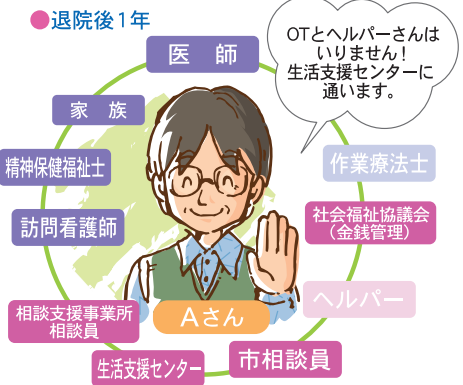


② 一人暮らしを楽しみ、やがて弁当作りの作業所に通いだしたAさん。

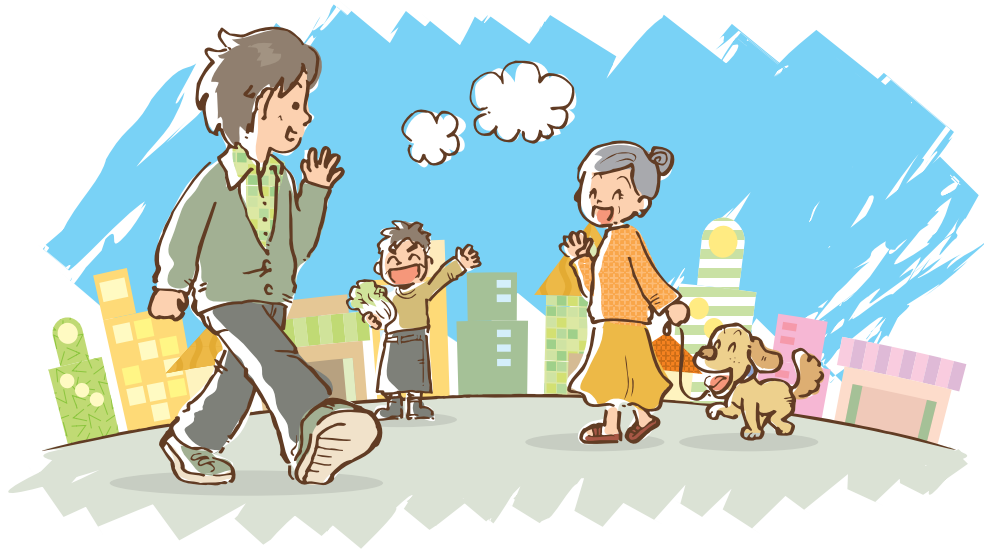
- 退院したAさんは友人と食事をしたり、一人で街に買い物に行ったり、一人暮らしを楽しんでいました。
- 退院後もケア会議を3ヶ月ごとに開催していきました。
- 退院から1年後のケア会議で相談支援事業所の相談員とつながり、生活支援センターの利用が楽しくなってきたAさんは「ヘルパーさんの利用や外来作業療法を終了したい。」と言い出しました。
- 1年半後のケア会議でAさんは、弁当作りの作業所に通う約束をしました。その後約束通り、半日ですが作業所に通い弁当作りを楽しんでいるAさんです。



Aさんの支援体制



誰でも本来生活すべきところで 生活したい!!



実際に支援プログラムを体験した 対象者・家族の声

- 大変よい事だと思うので、いろいろな人にやってあげてほしい。
- 各職種が集まり、自分のことについてそれぞれ意見を出し合える場を設けたことで退院に向けて前進したと感じた。
- 自分で出来ると思っていたのに、看護師さんの智恵を使って病気をかわっていくことがすばらしいとおもった。
- 大変役に立つプログラムで他のうつ病で苦しんでいる方々にも適用してほしい。研究が実用化されることを願います。
- 自宅にスタッフが来るので助かる。何かあったら相談できる。
- ケア会議はうれしいです。調子を維持するドリルはととてもためになる。退院後もこのような話し合いがあるとよいと思う。
- 入退院でケア会議を通して、ハローワーク、保険士さんに自分をよく知ってもらえてよかった。
- 自分の病気が分かるような気がした。
- 最初は不安だったが、とてもよかった。